

# 側面体型についての一考察 (IV)

—女子短大生—

小 川 キ ヨ 子

## Body Types as Viewed from the Side (IV)

—Women's Junior College Students—

Kiyoko OGAWA

### 緒 言

被服製作上、仮ぬい、補正の段階において、多くの場合何らかの形で補正が生ずる。補正の要因を探り、個体に適合した被服構成を行うことを目的として、被験者 198 例の体格・体型・胴部形態の検討を試み、その分類、傾向、体型別ウエストラインの形状について若干の知見を得たので、さきに広島文化女子短期大学紀要第15<sup>1)</sup>・第16<sup>2)</sup>・第18<sup>3)</sup>号に結果を報告した。

今回は、補正要因の一環とも考えられる、胴部形態を形成する各体型別ウエストラインと、諸式スカート原型のウエストラインとを比較・検討の結果、その関連性と適合性の一端にふれることができたのでこれを報告する。

資料としたウエストラインは〔文化・ドレメ・伊東・小井手・ビリー・高校教科書(実教・学研)〕の諸式である。

### 資料と方法

#### 資 料

1) 資料は広島文化女子短期大学被服学科の学生 198 例を昭和 49・52・54 年の 9 月に自動体型撮影器(シルエット)に依って撮影し、そのシルエットの後・前ウエストの高さを直尺で採寸し、9 体型別のウエストラインを検討したもので、結果を広島文化女子短期大学紀要第18号<sup>3)</sup>(29頁~35頁)に報告した。

今回はこの結果を資料として用いた。

被験者の年齢・居住地別例数は表 1・2 の通りである。

2) 9 体型別ウエストラインと、スカート原型のウ

表 1 被験者の年齢と例数・百分率(昭49・52・54年)

| 年齢   | 例 数      |          |          | 計   | %     |
|------|----------|----------|----------|-----|-------|
|      | 49年      | 52年      | 54年      |     |       |
| 20   | 1        | 1        |          | 2   | 1.0   |
| 19   | 32       | 30       | 29       | 91  | 46.0  |
| 18   | 45       | 42       | 18       | 105 | 53.0  |
| 計(%) | 78(39.4) | 73(36.9) | 47(23.7) | 198 | 100.0 |

エストラインとの検討の資料として用いたスカート原型は次の諸式で図 I に示す通りである。

〔文化・ドレメ・伊東・小井手・ビリー・高校教科書(実教・学研)〕

#### 方 法

方法は、スカート作図のための基礎線(後・前中心線、ウエストライン、ヒップライン)上に諸式のスカート原型を重ね合わせて作図し、各々の差異と 9 体型別ウエストラインとの比較・検討を行った。

検討の資料とした作図は次の 3 種類である。

- (イ) 基礎線を基準として各式のスカート原型を重ね合わせて作図する。……(図 4・5)
- (ロ) 後ウエストの高さを基準として各式のスカート原型を重ね合わせて作図する。……(図 6・7)
- (ハ) 下胴の高さを基準として各式のスカート原型を重ね合わせて作図する。……(図 8・9)

以上 3 つの方法で作図したウエストラインと、9 体型別ウエストラインとの検討を試みた。

なお、検討のための資料として用いた図 4~図 9 ま

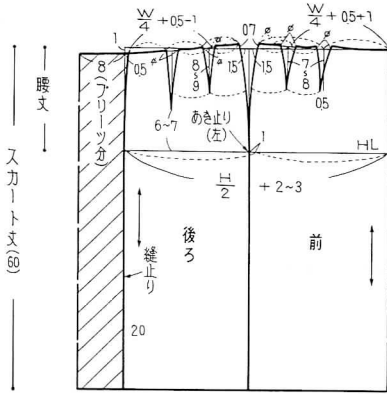


図1...① 文化式

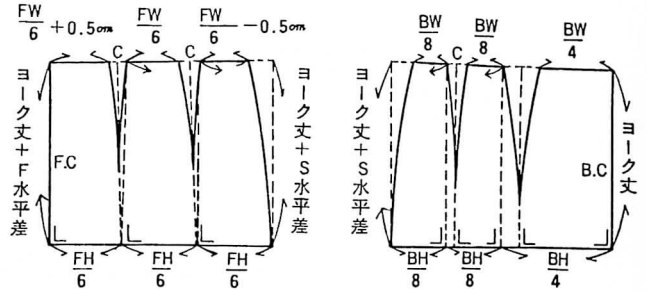


図1...③ 伊東式

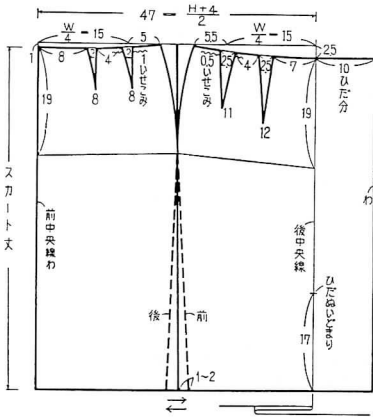


図1...② ドレメ式

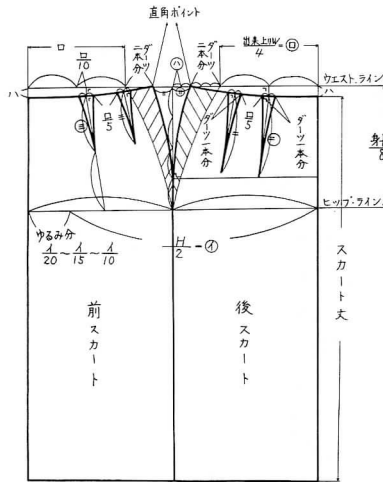


図1...④ 小井手式

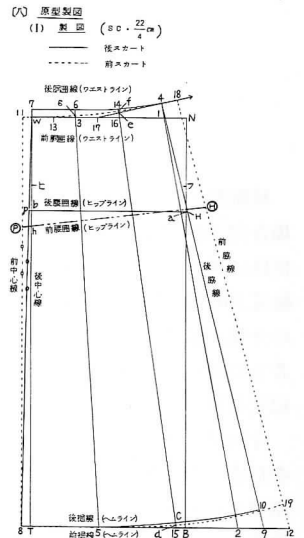


図1...⑤ ビリー式

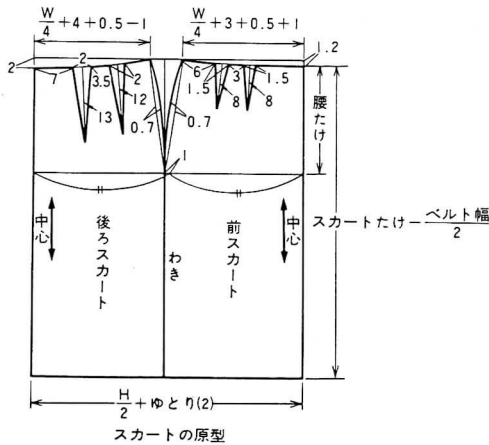


図1...⑥ 高校(実教)

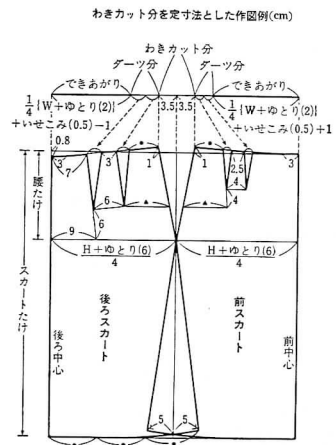


図1...⑦ 高校(学研)

図I 諸式スカート原型 [文化・ドレメ・伊東・小井出・ビリー・高校(実教・学研)]

表2 被験者の居住地と例数・百分率 (昭49・52・54年)

| 居住地  | 広島県    |        |        | 山口県   |       |       | 島根県   |       |       | 愛媛県   |       |       | 岡山県   |       |       | 高知県   |       |       | 大分県   |       |       | 計  |      |
|------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
|      | 49年    | 52年    | 54年    | 49    | 52    | 54    | 49    | 52    | 54    | 49    | 52    | 54    | 49    | 52    | 54    | 49    | 52    | 54    | 49    | 52    | 54    | 例数 | %    |
| 市内   | 11     | 12     | 11     |       | 1     |       |       |       |       |       |       |       | 1     |       |       |       |       |       |       |       | 1     | 37 | 18.7 |
| 週辺都市 | 24     | 22     | 17     | 9     | 9     | 3     | 2     | 1     |       |       |       |       |       |       | 1     |       |       |       |       |       |       | 88 | 44.4 |
| 郡部   | 22     | 21     | 11     | 7     | 5     | 2     | 3     | 1     | 1     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       | 73 | 36.9 |
| 計    | 57     | 55     | 39     | 16    | 15    | 5     | 5     | 2     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 198   |    |      |
| (%)  | (28.8) | (27.8) | (19.7) | (8.1) | (7.6) | (2.5) | (2.5) | (1.0) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | (0.5) | 100.0 |    |      |

での作図は、紙面の関係上、後・前中心線 5cm の位置で幅 5.5 cm をカットしたものである。また、作図上の腰丈は 18cm に統一し、各部の用語は JISLOIII 衣料のための身体用語によった。

次に 9 体型別ウエストラインと諸式スカート原型のウエストラインとの比較、検討にあたっては、まず、側面体型および 9 体型別ウエストラインについての理解を必要とするので、さきに報告した資料(3)の 29 頁～30 頁および 32 頁を記載する。

○資料(3)……20 頁～30 頁

側面体型分類の基準 (文化服装講座 2 による)

側面体型の分類は人体の側面から見た反りや曲り、凹凸などを基にして、後側面及び前側面を観察する。分類の方法は一般に反身体とか後身体とかよばれる体型を便宜上 A・B・C であらわし、後身、前身を組み合わせることによって 9 体型に分類する。どの様な体型の人もこの 9 体型に属するものである。

A 体型……

下半身突出部より上半身突出部の方が引っ込んでいる体型。

後側面を後 A 体型、前側面を前 A 体型と言う。

即ち、後 A 体型は、殿部より肩胛骨 (背部) のほうが引っこんでいる体型である。

前 A 体型は、下腹部より胸部 (乳房部) のほうが引っこんでいる体型である。

B 体型……

上半身突出部と下半身突出部が垂直線上に結ばれる体型で凹凸の差がない。一般にこの体型を標準体型としている。

C 体型……

上半身突出部より下半身突出部のほうが引っこんでいる体型。後 C 体型は、肩胛骨より殿部のほうが引っこんでいる体型で、前 C 体型は胸部より下腹部のほうが引っこんでいる体型である。

図(2)は側面体型 A・B・C のくみ合わせによる 9 体型である。

図のように、後が A 体型で前が C 体型の場合は A C 体型、後が B 体型で前が C 体型ならば B C 体型という。

体型のくみ合わせは、後側面を先に前側面をあとに言う。

○資料(3)……32 頁 (9 体型別ウエストラインの形状)

1) 被験者 198 例のウエストの高さの平均値は、後ウエストが 93.66 cm、前ウエストが 94.11 cm である。前ウエストが後ウエストより 0.45 cm 高い。

2) ウエストの高さについてみると、後ウエストより前ウエストが高いのは C A 体型 (1.2 cm)、ついで C C 体型 (1.1 cm)、B A 体型 (1.0 cm)、C B 体型 (0.6 cm)、A A 体型 (0.5 cm)、A B・B B 体型が (0.1 cm) の順である。

後ウエストが前ウエストよりも高いのは A C 体型 (0.4 cm)、B C 体型 (0.2 cm) で、体型別ウエストラインは図 3 に示す通りである。

3) 後・前ウエストの高さの差についてみると「後 > 前」が 27.8% (55 例) で全体の 1/4 強、「後 < 前」が 47.5% (94 例) で全体の 1/2 弱、「後 = 前」が 24.7% (49 例) で全体の約 1/4 である。

以上、9 体型別後・前ウエストの高さの差によって、各体型の胴部形態を観察することができ、そのウエストラインは、後さがり・前さがり・水平位の三形態に分類することができる。またその傾斜の度合いは上記の通りである。

### 結果および考察

#### I 基礎線を基準としたときの後・前ウエストラインの高さについて

基礎線を基準として、諸式原型を重ね合わせたときの各式別の後・前ウエストラインの高さ (以後ウエストの高さという) および当該体型は、表 3・図 3・4

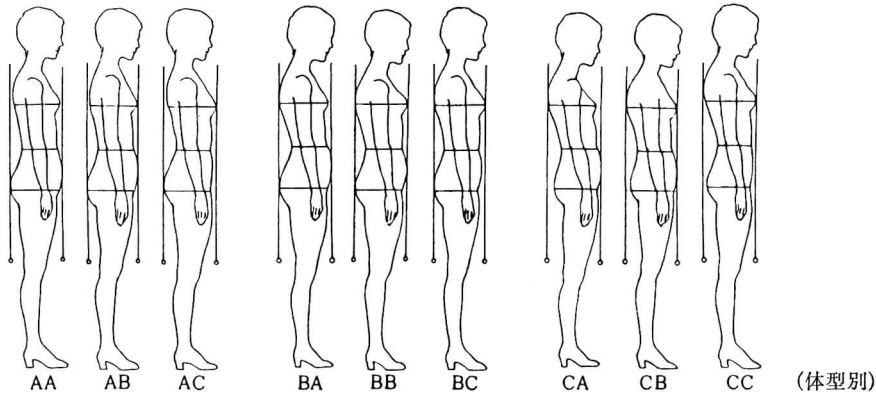
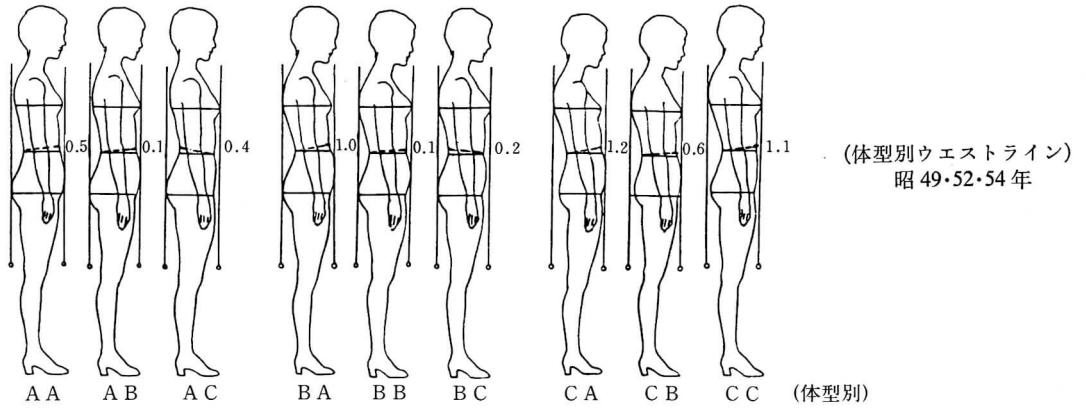


図2 側面体型A・B・Cのくみ合わせによる9体型 (文化服装講座2による)



(伊東)(小井手)(ピリー) (文化)(小井手)(ピリー) (ドレメ)(伊東)(文化) (方式別)

注. ( )内は体型のウエストラインに該当する方式を示す

図3 9体型別のウエストラインと該当方式

表3 基礎線を基準としたときの後・前ウエストの高さと差, および体型区分 (昭49・52・54年) (cm)

| 式      | 後・前ウエストの高さ |         | 後・前ウエストの高さの差 |     | 体型区分 ( )内は9体型別<br>後・前ウエストの高さの差 |                     |
|--------|------------|---------|--------------|-----|--------------------------------|---------------------|
|        | 後          | 前       | 後            | 前   |                                |                     |
| 文化     | (-) 1.0    | 0.0     |              |     | <1.0                           | CC (<1.1) BA (<1.0) |
| ドレメ    | (-) 2.5    | (-) 1.0 |              |     | <1.5                           | CA (<1.2)           |
| 伊東     | 0.0        | (+) 0.5 |              |     | <0.5                           | AA (<0.5) CB (<0.6) |
| 小井手    | (-) 1.6    | (-) 1.6 | 0.0 (=)      | 0.0 |                                | AB (<0.1) BB (<0.1) |
| ピリー    | (+) 1.1    | 0.0     | 1.1 >        |     |                                | AC (>0.4) BC (>0.2) |
| 高校(実教) | (-) 2.0    | (-) 1.2 |              |     | <0.8                           | CB (<0.6)           |
| 高校(学研) | (-) 0.8    | 0.0     |              |     | <0.8                           | CB (<0.6)           |

注. ウエストの高さが基礎のウエストラインより低いものを(-), 高いものを(+), 後ウエストが前ウエストより高いものを>, 前ウエストが後ウエストより高いものを<, 後・前ウエストの高さが等しいものを=とする。

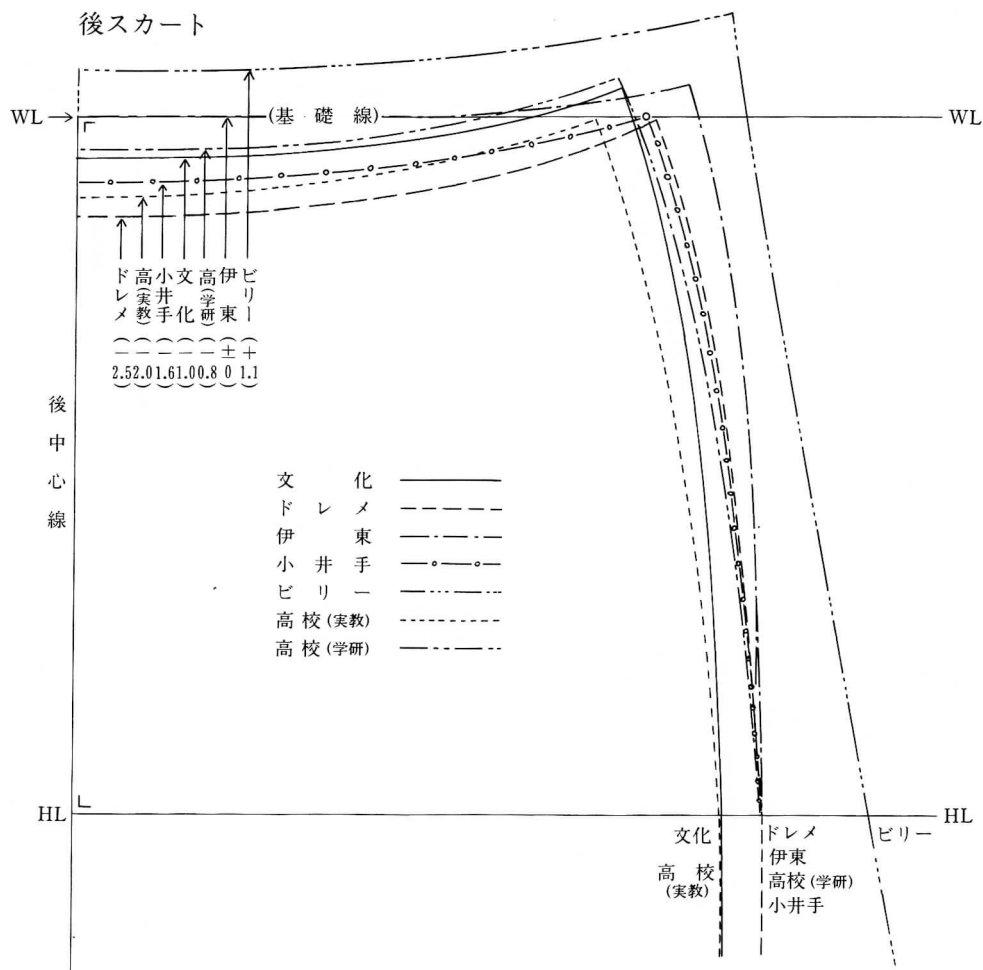


図4 基礎線を基準としたときの後ウエストの高さ

・5に示す通りである。

(ウエストの基礎線よりも高くなったものを(+), 低くなったものを(-), 後・前同寸のものを(0)とする)

まず, 後中心線における後ウエストの高さは, 文化(-1.0cm), ドレメ(-2.5cm), 小井手(-1.6cm), 高校(実教)(-2.0cm), 高校(学研)(-0.8cm)である。

伊東は(0.0cm)でウエストの基礎線(以後基礎線と言う)に丁度, ビリーは(+1.1cm)で基礎線よりも高い。

前中心線においては, 文化・ピリー・高校(学研)はともに(0.0cm)で基礎線丁度である。

ドレメは(-1.0cm), 小井手(-1.6cm), 高校(実教)(-1.2cm)で基礎線よりも低く, 伊東は(+0.5cm)で基礎線よりも高い。

次に, 後・前ウエストの高さの差についてみれば, 文化1.0cm, ドレメ1.5cm, 高校(実教・学研)0.8cmで, それぞれ前ウエストの方が高い。

小井手は後・前同寸, ビリーは後より前ウエストの方が1.1cm低い。

以上の後・前ウエストの高さの差を図3の9体型別

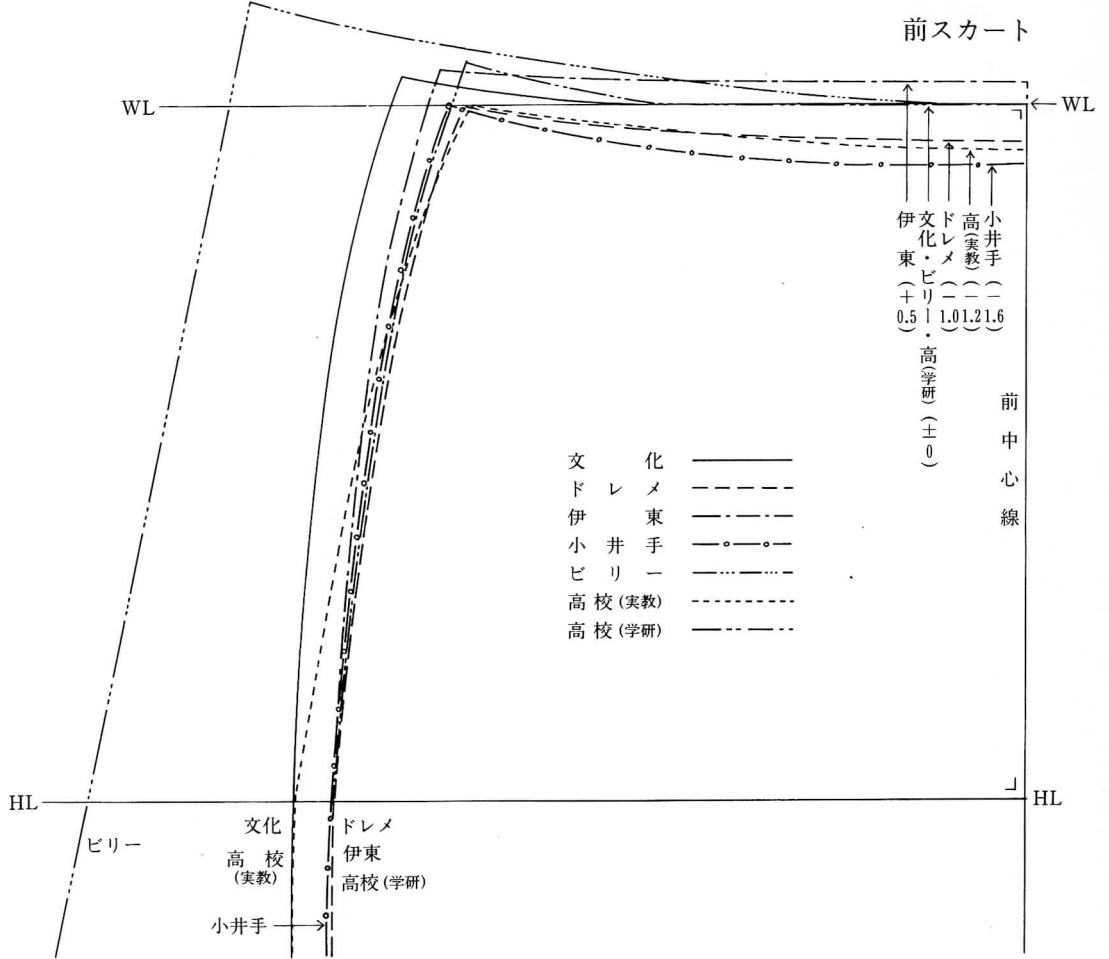


図5 基礎線を基準としたときの前ウエストの高さ

ウエストラインに照合してこれを比較、検討すれば表3の体型区分に示す通りである。

即ち、文化はCC・BA体型、ドレメはCA体型、伊東はAA・CB体型、高校は実教学研ともCB体型に該当し、小井手はAB・BB体型、ビリーはAC・BC体型に該当する。

また、被験者198例の後・前ウエストの高さの差および例数分布とこれにみあう諸式別後・前ウエストの高さの差の該当区分は表4に示す通りである。

後ウエストが前ウエストより高い場合を「後>前」、前ウエストが後ウエストより高い場合を「後<前」、

後・前ウエストが同寸の場合を「後=前」とする。

「後>前」のものではその差寸が0.91~1.20cm〔22例(11.1%)〕間にビリーが存在し、「後<前」のものでは0.31~0.60cm〔18例(9.1%)〕間に伊東、0.61~0.90cm〔1例(0.5%)〕間に高校(実教・学研)、0.91~1.20cm〔38例(19.3%)〕間に文化、1.21~1.50cm〔16例(8.1%)〕間にドレメがそれぞれ存在する。

また「後=前」(49例(24.7%))では小井手がここに存在する。

なお、「後<前」に属する94例(47.5%)の範囲内で、諸式の後・前ウエストの高さの差について、その

適合比率をみれば、文化 38 例 (40.4%) 伊東 18 例 (19.2%), ドレメ 16 例 (17.0%), 高校 (実教・学研) が各 1 例 (1.1%) の割である。

即ち、「後<前」体型に対しては、今回検討した 7 方式中 5 方式のウエストラインは 94 例中の 74 例 (78.7%) に適合すると考えることができる。

石毛<sup>12)</sup>によれば胴囲線は、日本婦人では水平位である場合が少なく、ほとんど後さがりの体型である。若い婦人では、胴高の前後の差は、平均 0.8 cm くらいである。とある。

本調査においても 7 種類の諸式の内、5 方式がそのウエストラインは後よりも前ウエストが高く、後さが

りの形態を示している。また該当する体型の後・前ウエストの高さの差の平均値は丁度 0.8 cm となり、石毛<sup>12)</sup>の調査と一致する。

なお、ウエストラインが「後=前」体型に対しては小井手が 100%, 「後>前」体型に対しては、ビリーが 55 例中、22 例 (40%) の適合度を示す。

II 後ウエストの高さを基準としたときの胴・前ウエストの高さについて

後ウエストの高さを基準として、諸式原型を重ね合わせて、その胴・前ウエストの高さをみると表 5、図 6・7 の通りである。

表 4 後・前ウエストの高さの差と例数分布・百分率および式別該当区分 (昭 49・52・54 年)

| 差<br>(cm) | 後・前 の 差 の 区 分 |        |       |       |        |          |       |        |       | 計   |         |
|-----------|---------------|--------|-------|-------|--------|----------|-------|--------|-------|-----|---------|
|           | 後 > 前         |        |       | 後 < 前 |        |          | 後 = 前 |        |       | 例数  | %       |
|           | 例数            | %      | (式)   | 例数    | %      | (式)      | 例数    | %      | (式)   |     |         |
| 0.00のもの   |               |        |       |       |        |          | 49    | 24.7   | (小井手) | 49  | 24.7    |
| 0.01~0.30 |               |        |       | 6     | 3.0    |          |       |        |       | 6   | 3.0     |
| 0.31~0.60 | 15            | 7.7    |       | 18    | 9.1    | (伊東)     |       |        |       | 33  | 16.8    |
| 0.61~0.90 |               |        |       | 1     | 0.5    | (高校実教学研) |       |        |       | 1   | 0.5     |
| 0.91~1.20 | 22            | 11.1   | (ビリー) | 38    | 19.3   | (文化)     |       |        |       | 60  | 30.4    |
| 1.21~1.50 | 5             | 2.5    |       | 16    | 8.1    | (ドレメ)    |       |        |       | 21  | 10.6    |
| 1.51~1.80 | 2             | 1.0    |       | 5     | 2.5    |          |       |        |       | 7   | 3.5     |
| 1.81~2.10 | 6             | 3.0    |       | 3     | 1.5    |          |       |        |       | 9   | 4.5     |
| 2.11~2.40 | 1             | 0.5    |       | 3     | 1.5    |          |       |        |       | 4   | 2.0     |
| 2.41~2.70 | 1             | 0.5    |       | 4     | 2.0    |          |       |        |       | 5   | 2.5     |
| 2.71~3.00 | 3             | 1.5    |       |       |        |          |       |        |       | 3   | 1.5     |
| 計 (%)     | 55            | (27.8) |       | 94    | (47.5) |          | 49    | (24.7) |       | 198 | (100.0) |

注. 後ウエストが前ウエストより高いものを>, 前ウエストが後ウエストより高いものを<, 後・前ウエストの高さが等しいものを=とする。

表 5 後ウエストの高さを基準としたときの胴・前ウエストの高さと差 (昭 49・52・54 年) (cm)

| 式        | 後・下胴・前ウエストの高さ |         |         | 下胴・前ウエストの高さの差 |
|----------|---------------|---------|---------|---------------|
|          | 後             | 下 胴     | 前       |               |
| 文 化      | 0.0           | (+) 1.7 | (+) 1.0 | 0.7           |
| ド レ メ    | 0.0           | (+) 2.5 | (+) 1.5 | 1.0           |
| 伊 東      | 0.0           | (+) 0.8 | (+) 0.5 | 0.3           |
| 小 井 手    | 0.0           | (+) 1.6 | 0.0     | 1.6           |
| ビ リ ー    | 0.0           | (+) 1.4 | (-) 1.1 | 2.5           |
| 高 校 (実教) | 0.0           | (+) 2.0 | (+) 0.8 | 1.2           |
| 高 校 (学研) | 0.0           | (+) 1.8 | (+) 0.8 | 1.0           |

注. ウエストの高さが基礎のウエストラインより低いものを (-), 高いものを (+) とする。

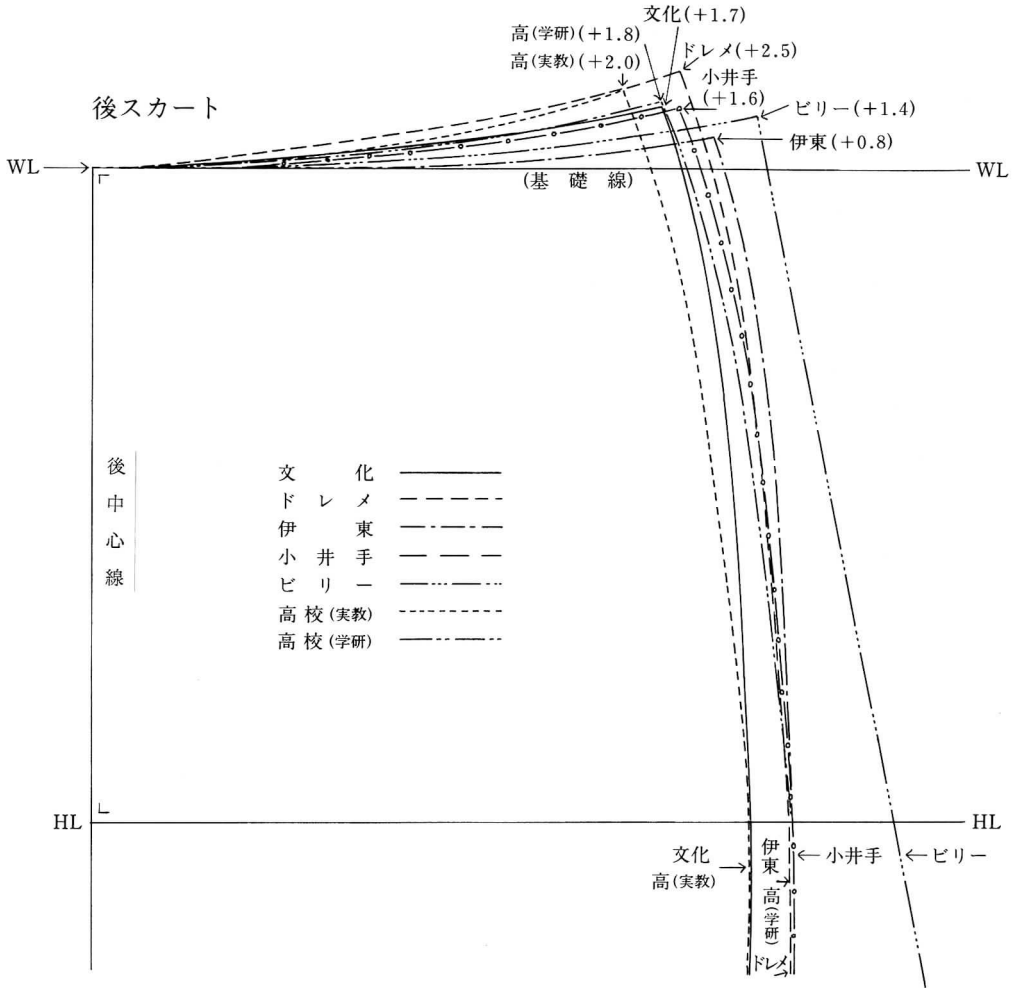


図6 後ウエストの高さを基準としたときの下胴の高さ

表6 下胴の高さを基準としたときの後・前ウエストの高さと差 (昭49・52・54年) (cm)

| 式        | 下胴・後・前ウエストの高さ |         |         | 後・前ウエストの高さの差 |
|----------|---------------|---------|---------|--------------|
|          | 下 胴           | 後       | 前       |              |
| 文 化      | 0.0           | (-) 1.7 | (-) 0.7 | 1.0          |
| ド レ メ    | 0.0           | (-) 2.5 | (-) 1.0 | 1.5          |
| 伊 東      | 0.0           | (-) 0.8 | (-) 0.3 | 0.5          |
| 小 井 手    | 0.0           | (-) 1.6 | (-) 1.6 | 0.0          |
| ビ リ ー    | 0.0           | (-) 1.4 | (-) 2.5 | 1.1          |
| 高 校 (実教) | 0.0           | (-) 2.0 | (-) 1.2 | 0.8          |
| 高 校 (学研) | 0.0           | (-) 1.8 | (-) 1.0 | 0.8          |

注. ウエストの高さが基礎のウエストラインより低いものを (-), 高いものを (+) とする。



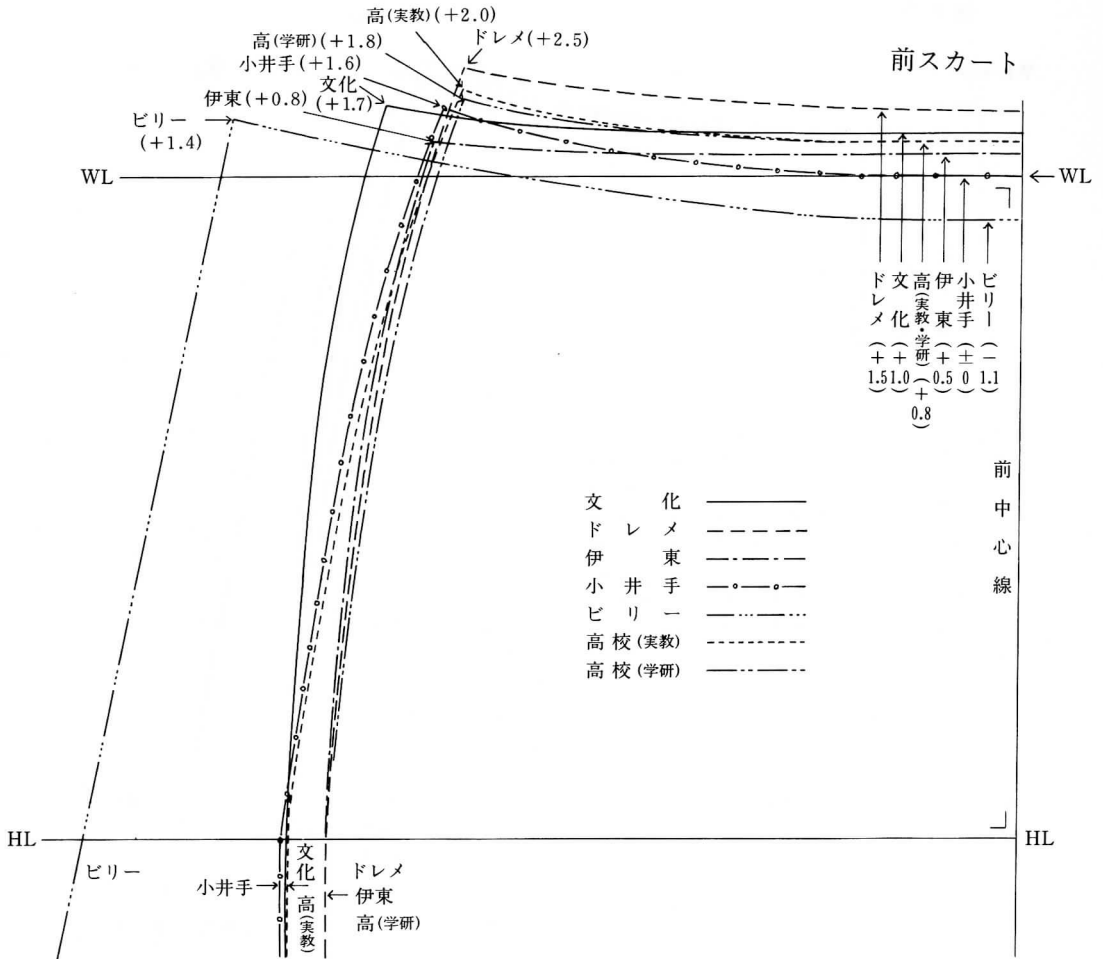


図7 後ウエストの高さを基準としたときの前ウエストと下胴の高さ

下胴の高さは、ドレメ (+2.5 cm)、高校 (実教) (+2.0 cm)、高校 (学研) (+1.8 cm)、文化 (+1.7 cm)、小井手 (+1.6 cm)、ビリー (+1.4 cm)、伊東 (+0.8 cm) の順でいずれも基礎線よりも高い。

前ウエストの高さは、ドレメ (+1.5 cm)、文化 (+1.0 cm)、高校は実教・学研ともに (+0.8 cm)、伊東 (+0.5 cm) の順で基礎線よりも高い。小井手は (0.0 cm) で基礎線丁度、ビリーは (-1.1 cm) で基礎線よりも低い。

次いで、下胴・前ウエストの高さの差は、ビリー 2.5 cm、小井手 1.6 cm、高校 (実教) 1.2 cm、高校 (学研) ・ドレメがともに 1.0 cm、文化 0.7 cm、伊東 0.3 cm の順である。

中でもビリーと小井手は差が大きい。

### III 下胴の高さを基準としたときの後・前ウエストの高さについて

下胴の高さを基準として諸式原型を重ね合わせて、

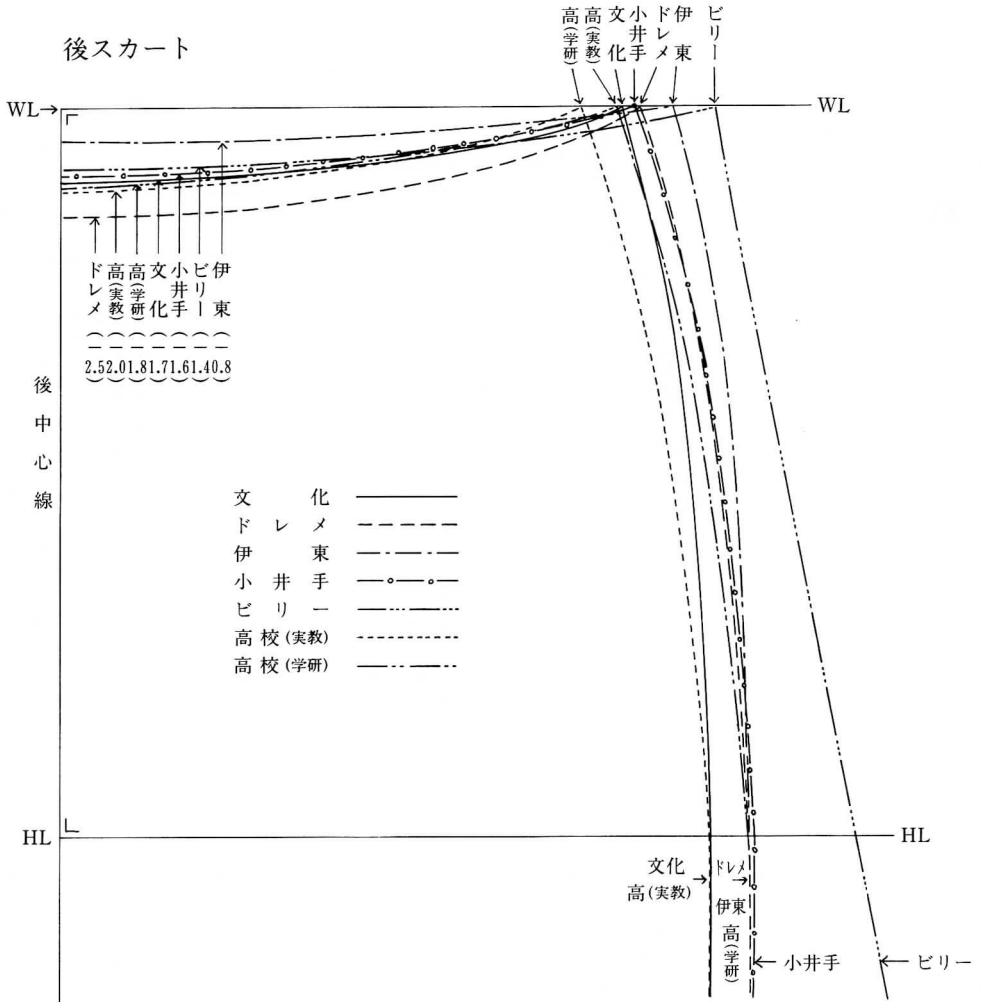


図8 下胴の高さを基準にしたときの後ウエストの高さ

その後・前ウエストの高さをみれば表6, 図8・9の通りである。

後ウエストの高さは、ドレメ(-2.5 cm), 高校(実教)(-2.0 cm), 高校(学研)(-1.8 cm), 文化, (-1.7 cm), 小井手(-1.6 cm), ビリー(-1.4 cm), 伊東(-0.8 cm)の順である。

前ウエストの高さは、ビリー(-2.5 cm), 小井手(-1.6 cm), 高校(実教)(-1.2 cm), ドレメ・高校(学研)ともに(-1.0 cm), 文化(-0.7 cm), 伊東

(-0.3 cm)の順である。

また、後・前ウエストの高さの差は表3・6と同じである。即ち、ドレメ・高校(実教・学研)・文化・伊東式はウエストラインが後さがりの体型に、小井手式はウエストラインが水平な体型に、ビリー式はウエストラインが前さがりの体型に適合することを示している。

また、下胴の高さを基準とした後・前ウエストラインのくりの深さについてみれば、くりの深いものの方が、より胴囲りを立体的に包むと考えることができる。

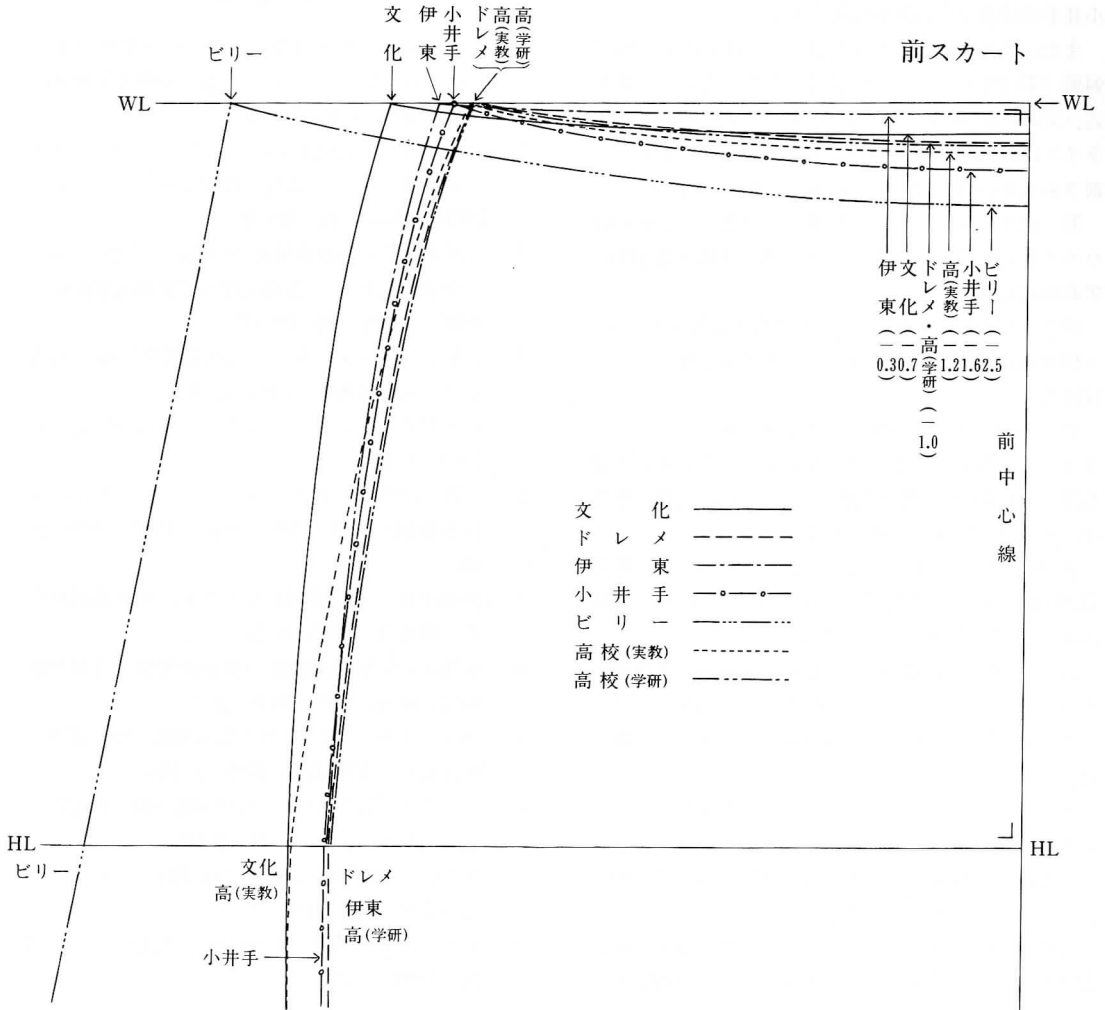


図9 下胴の高さを基準にしたときの前ウエストの高さ

後ウエストラインでは、ドレメ式が最も深く、前ウエストラインではビリー式が最も深い。

要 約

女子短大生 198 例のウエストラインを 9 体型別 (AA・AB・AC・BA・BB・BC・CA・CB・CC 体型) に分類し、7 方式 [(文化・ドレメ・伊東・小井手・ビリー・高校 (実教・学研)) のスカート原型ウエストラインとの比較・検討を行った結果は次の通りで

ある。

1) 文化式は CC・BA 体型、ドレメ式は CA 体型、伊東式は AA・CB 体型、小井手式は AB・BB 体型、ビリー式は AC・BC 体型、高校 (実教・学研) は CB 体型のウエストラインに該当する。

2) 後・前ウエストの高さの差は、「後<前」は、ドレメ式 (1.5 cm)、文化式 (1.0 cm)、高校 (実教・学研) (0.8 cm)、伊東式 (0.5 cm) である。

「後>前」は、ビリー式 (1.1 cm) で、「後=前」

は小井手式である。

即ち、ドレメ・文化・高校・伊東式はウエストラインが後さがりの体型に、ビリー式は前さがりの体型に、小井手式は水平位の体型に適合する。

また、ウエストラインが後さがりの体型は198例中94例(47.5%)あり、今回検討した7方式のうち5方式〔(文化・伊東・ドレメ・高校(学研・実教))のウエストラインは94例中の74例(78.7%)に適合し、後・前ウエストの高さの差の平均値は0.8cmである。

3) 後ウエストの高さを基準としたときの下胴・前ウエストの高さの差についてみれば、下胴の高さはいずれの式も基礎線より高い。

前ウエストの高さは、ドレメ・文化・高校(実教・学研)・伊東式は基礎線よりも高く、小井手は丁度でビリー式は低い。

4) 下胴の高さを基準としたときの後・前ウエストラインのくりの深さは、後ウエストではドレメ式が最も深く(2.5cm)、次いで高校(実教・学研)、文化、小井手、ビリー、伊東式の順である。

前ウエストラインでは、ビリー式が最も深く(2.5cm)、次いで小井手、高校(実教)、ドレメ、高校(学研)、文化、伊東式の順である。

以上、今回の比較・検討に依り9体型別ウエストラインと、資料に用いた7方式のスカート原型ウエストラインとの関連性ならびに適合性のあらましを知ることができた。

実際のスカート作図に於いては、それぞれの原型を基盤に、ダーツ、切替線その他、あらゆる体型にフィットし、また様々のシルエットを構築するための技法が、種々構じられる筈である。

今後は更に、今回の結果を参考にして、最も基礎的な各原型に於ける9体型別ウエストラインの補正なら

びにデザイン別のウエストラインの変化について、検討を重ねていきたいものと考えている。

#### 参 考 資 料

- 1) 小川キヨ子：側面体型についての一考察 (I) —女子短大生— 広島文化女子短期大学紀要, 1982, 第15号, pp. 25~33.
- 2) 小川キヨ子：側面体型についての一考察 (II) —女子短大生— 広島文化女子短期大学紀要, 1983, 第16号, pp. 31~38.
- 3) 小川キヨ子：側面体型についての一考察 (III) —女子短大生— 広島文化女子短期大学紀要, 1985, 第18号, pp. 29~35.
- 4) 文化ファッション講座 文化服装学院編 服人服2 文化出版局, 1984, p. 41.
- 5) 杉野芳子：新ドレメ式洋裁上, 株式会社光文社, 1979, p. 40.
- 6) 小井手伊勢子：オリジナリティ, システム, 洋装基礎製図, 株式会社三修社, 1983, 1版, p. 14.
- 7) 伊東達也：夏季講習会テキスト, 伊東衣服研究所—伊東会, 1980, p. 26.
- 8) 広島女学院短期大学部 (被服研究室) 洋裁型紙展開の研究, 1977~1979, p. 7.
- 9) 酒井ノブ子/ほか37名：改定家庭一般の研究 株式会社学習研究社, 1985, p. 140.
- 10) 片山芳子/ほか15名：高校家庭一般 (改定版) 実教出版株式会社, 1985, p. 90.
- 11) 衣料のための身体用語 (JIS L 0111-1983) 日本規格協会, 1983, pp. 2~3.
- 12) 石毛フミ子：被服の立体構成 (理論編) 同文書院, 1950, p. 200.

### Summary

Waistlines of 198 women's junior college students were studied and were classified into 9 body types. Then those 9 types' waistlines were compared with the waistlines of 7 different styles for making skirts.

The following results were obtained:

- 1) The waistlines of Bunka Style correspond to CC&BA body types, and ones of Doreme, Ito, Koide, Billy and High School Styles correspond to CA, AA&CB, AB&BB, AC&BC and CB body styles respectively.
- 2) Doreme, Bunka, High School and Ito Styles fit the waistlines which are tilted in back, Koide Style fits the horizontal waistlines and Billy Style fits the waistlines which are tilted in front.
- 3) Doreme Style has the deepest hollow of the waistline in back part (2.5 cm) and Billy Style has the deepest in front part (2.5 cm).

The degree of fitness has been discussed comparing the styles for making skirts with the 9 human body types. The writer intends to advance this study to find out how the waistlines of the styles for making skirts can be adjusted to fit those of various body types and also to find out changes in waistline in various clothing designs.